

北海道臨床工学技士会 執筆ガイドライン（仮案）

1. 論文の構成

(1) 項目名

- ① 和文論文は、緒言、研究方法、研究結果、考察、結論とする。必要に応じて対象、理論を独立させ項目立てしてもよい。
- ② 英文論文は、Introduction、Materials & Methods、Results、Discussion、References とする。

(2) その他の項目名

利益相反について記載する場合の項目名は「利益相反 (Conflict of Interest)」(COI と略さない) とし、「参考文献」の直前に記載する。

2. 見出しの番号・本文中の図表の表記等

(1) 本文

見出しの番号は、1. → 1) . → (1) 、以下適宜を標準とする。

(2) 図表の表記

- ① 本文中の Figure は、文頭を除き、Fig. に統一する。文頭は略さない。
- ② 和文論文中の図表の表記は、図表の内容が英文で作成されている場合は、本文中もタイトルも Table および Fig. で表記し、和文で作成されている場合は、図、表で表記する。

3. 記述

(1) 統一用語

公益社団法人日本臨床工学技士会編纂の「学術論文作成の手引き」（平成 27 年）掲載の用語に従い統一する。

(2) 検定の表記

検定の表記について、一般的にイタリックで表記するもの、大文字で表記するものの一部を例示する。

- ① Fisher's exact test (Fisher の正確確率検定)
- ② Welch's test (Welch の検定)
- ③ Mann-Whitney *U*-test (*U*はイタリック) (Mann-Whitney の *U*検定)
- ④ Student's *t*-test (*t*はイタリック) (Student の *t*検定)
- ⑤ Paired *t*-test (*t*はイタリック) (対応のある *t*検定)

(3) 有意水準と図表における*印の対応

- ① *P*は、大文字・イタリック、*P*と<の間および*P*と数値の間に半角スペースを入れる。
(例示：**P* < 0.05、***P* < 0.01、****P* < 0.001)
- ② 「*」は、他の記号で代替しないが、2種類の差異が記載される場合は、「他の記号」を用いてもよい。

(4) 統計用語

統計用語は英文・和文混合で記載しない。

(例示：Mean ± SD を和文で記載する場合は、平均 ± 標準偏差と記載し、Mean± 標準偏差や平均 ± SD と記載しない)

(5) 例数 (n)

n = 数は、括弧書きする (例示：(n = 250))

(6) 略語、略称

① 英文の略語はピリオドを省略する。(以下例示)

ア. Versus : vs

イ. not significant : NS

ウ. not detected : ND (論文中で定義するか、フルスペルとする)

エ. Not determind : ND (論文中で定義するか、フルスペルとする)

オ. Coefficient of variation : CV

カ. Standard deviation : SD

キ. Standard error of mean : SEM

ク. edition、edited : ed

ケ. e.g. : eg (イタリック)

コ. i.e. : ie (イタリック)

サ. etc. : etc (イタリック)

シ. Co.,Ltd. : Co,Ltd

② 英文の略語は、一般的な略語であっても、初出時にフルスペルを記載し、略語を定義する。フルスペルは、本来小文字で記載される英文名称は小文字で、略語は大文字で記載する。

ア. 正式名称和訳 (英文フルスペル : 英文略語)

イ. 英文フルスペル (英文略語)

(例示：慢性骨髄性白血病 (chronic myelogenous leukemia : CML))

③ 略語・略式は正式名称の後に括弧書きとする。

④ 本文中に一度しか現れない名称は、略語・略式の記載は不要とする。ただし、略語・略称が一般的である名称は正式名称の後に略語・略称が括弧書きされていてもよい。

⑤ 「当院」または「当施設」が、当該論文の研究が実施された著者の所属する病院または施設である場合は、定義は不要とし、初出時に「当院」または「当施設」と記載してよい。

(7) 日付

期間を表示する場合、年月日の年が同じ場合でも、読者に明確にするため後の年は省略せず、〇〇年〇月〇日～〇〇年〇月〇日と記載する。ただし、期間の長さが明示されている場合は省略してもよい。(例示：2013年10月1日～5日の5日間)

(8) その他

① 登録商標のマーク (®) および商標のマーク (™) は、記載しなくてもよい。

② キーワードは固有名名称を除き、小文字で記載し、各キーワードの間は、「,」に統一する。

- ③ 方法の項に製品名を記載する場合は、メーカー名および所在地の都市名を記載し、これらの間に「,」を記載する。一般名称の後に特定のメーカーの製品名および仕様を記載する場合は「一般名称（製品名, 仕様; メーカー名, 所在地の都市名）」を記載することを推奨する。
- ④ 外国企業の名称は、日本法人子会社の場合は日本法人の正式名称と所在地の都市名、日本支社の場合は、現地法人の正式名称（原語）と本社所在地の都市名を記載することを推奨する。
- ⑤ 図表中に引用する文献を引用文献リストに記載する場合は、本文中に引用する文献より後に記載する。図表に記載した引用文献番号は、掲載時に図表が本文中に記載されても、本文に合わせて番号を現れた順に変更する必要はなく、もとの番号のまま記載する。
- ⑥ 数式記号（=, -, +, ±, ÷, ×, <, >）は、前後に半角スペースを入れる。
- ⑦ 単位と数値の間には半角スペースを入れる。

(9) 利益相反

- ① 利益相反のない場合：以下の定型文を入れる。

利益相反はない

- ② 利益相反のある場合：「自己申告による COI 報告書」の項目に係らず利益相反のある著者名とする。（例：○田○郎（○○製薬））

(10) 倫理規定

人を対象とした研究においては、「ヘルシンキ宣言」（世界医師会）の倫理的原則、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和4年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）に則ること。また、所属機関・団体および共同研究機関・団体の倫理委員会の承認を得る必要があり、本文中に承認番号を記載すること。

記載例） 本研究は○○病院倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号：0712）

(11) 引用文献

- ① 引用文献の引用頁の記載「最初頁-最終頁」は、共通部分を省略せずに記載する。
- ② 引用文献として省庁の通知文を記載する場合は、発信年月日、発信番号、通知名（発信元）の順に記載する。
- ③ 引用文献として、省庁の報告書（頁番号の記載がある場合）を記載する場合は、単行本の記載方法に従う。
- ④ オンラインジャーナル、オンライン書籍の引用は引用文献に含め、頁番号が記載されている場合は、引用頁を記載する。雑誌記載に先行してオンラインジャーナルに記載されている場合、採択時に雑誌が発行されている場合もあるので、掲載用原稿提出時に確認し、雑誌の記載を優先して記載する。
- ⑤ オンラインジャーナルのみで公開される雑誌については、原則として論文番号を含めた「DOI」を記載する。（記載例：doi : 10.1136/bmj.b2525）
- ⑥ インターネット上の二次資料からの引用は認めない。記述の根拠となる一次資料を引用する。（例示：Up to Dateからの引用は認めない）
- ⑦ 海外の公的機関の通知文等は、情報の内容と URL を本文中に記載し、引用文献に含めない。（例

示：NIOSHのアラート)

- ⑧ インターネット、講演要旨集、添付文書、インタビューフォーム、社内資料および新聞からの引用は、引用文献に含めず本文中に記載する。
- ⑨ 引用文献が法律の場合は、法律名、条行番号（本文中に記載のある場合は、記載不要）を記載する。投稿時点で引用する法律が現行法でない場合は、施行年月日を記載する。

⑩ 引用文献の書き方

ア. 雑誌の場合

著者名, 著者名, 著者名, ほか: 論文題名, 雑誌名巻(号); 初頁-終頁, 発行年.

イ. 単行本の場合

著者名: 書名. 版. 出版地. 出版社. 発行年. 初頁-終頁

ウ. 共著の場合は、その氏名を3人とし、3名以外の扱いは「3人目の氏名, ほか:」と記載する。

(12) インターネット、講演要旨集、添付文書、インタビューフォーム、社内資料、雑誌からの引用の記載方法

- ① インターネットからの引用は、URL およびアクセスした年月日をURLの後に記載する。
- ② 講演要旨集からの引用を記載する場合は、筆頭著者、演題番号または演題名、学術大会名、開催年月、開催地の都市名を記載する。
- ③ 講演要旨集が雑誌に記載されている場合は、雑誌の記載方法に準じて、本文中に記載する。
- ④ 講演後に執筆された雑誌に掲載された論文は、雑誌の記載方法に準じて、本文中に記載する。
- ⑤ 添付文書、インタビューフォームおよび社内資料からの引用は、タイトル、社名、作成日付や改定日付などを漏れなく記載する。
- ⑥ 新聞からの引用は、見出し、新聞名、発行日などを漏れなく記載する。

(13) 図表

① 図表共通部分

- ア. 数値が小数点以下の場合は、「0.」から記載する。
- イ. アンケート用紙は、項目を列挙するだけの場合は表、「用紙の形式」を示す場合は図として作成する。
- ウ. 説明に略語を列記する場合は、正式名称と略語の間は「:」、次の略語との間は「,」に統一する。(例示: フルスペル: 略語, フルスペル: 略語, …)
- エ. 同種の、複数のグループについて説明する場合、グループ毎に「,」の記載を含む説明がある場合は、各グループの間は「;」を記載する。
- オ. 図表のタイトルが英文の場合、固有名詞、略語などを除き、文頭のみ大文字に統一する。タイトルに「ピリオド」はつけない。
- カ. 図表の英文の説明文は、文末に「.」をつける。

② 表

- ア. 表のタイトルは表の上に左寄せで、表の説明は表の下に左寄せで記載する。
- イ. 表中は原則として網掛けしない。

ウ. 表に注釈を入れる場合の記号は、原則として a), b), c), . . . を使用する。a), b), c), . . . の記号が他で使用される場合は、以下のシンボル等を使用してもよい。

*, **, ***, . . . 1), 2), 3), . . . *1, *2, *3, . . .

表中の記号は上付きとするが、説明に記載する記号は上付きとはしない。

③ 図

ア. 複数のグラフをまとめた図の各パネルの名前は、A, B, C, . . . を原則とする。

イ. グラフの軸タイトルおよびグラフの軸目盛の数值、図中の文字のフォントは MS P 明朝とする。

ウ. 図中のマーク (○, ●, □, ■, ◇等) の説明は、マークと説明の間に「:」を記載しない。

エ. 凡例は説明として記載することを原則とする。

オ. 図表一体となった図の表部分は、表の作成規準に従っていなくてもよい。

作成日 : 2019 年 2 月

改訂日 : 2022 年 10 月